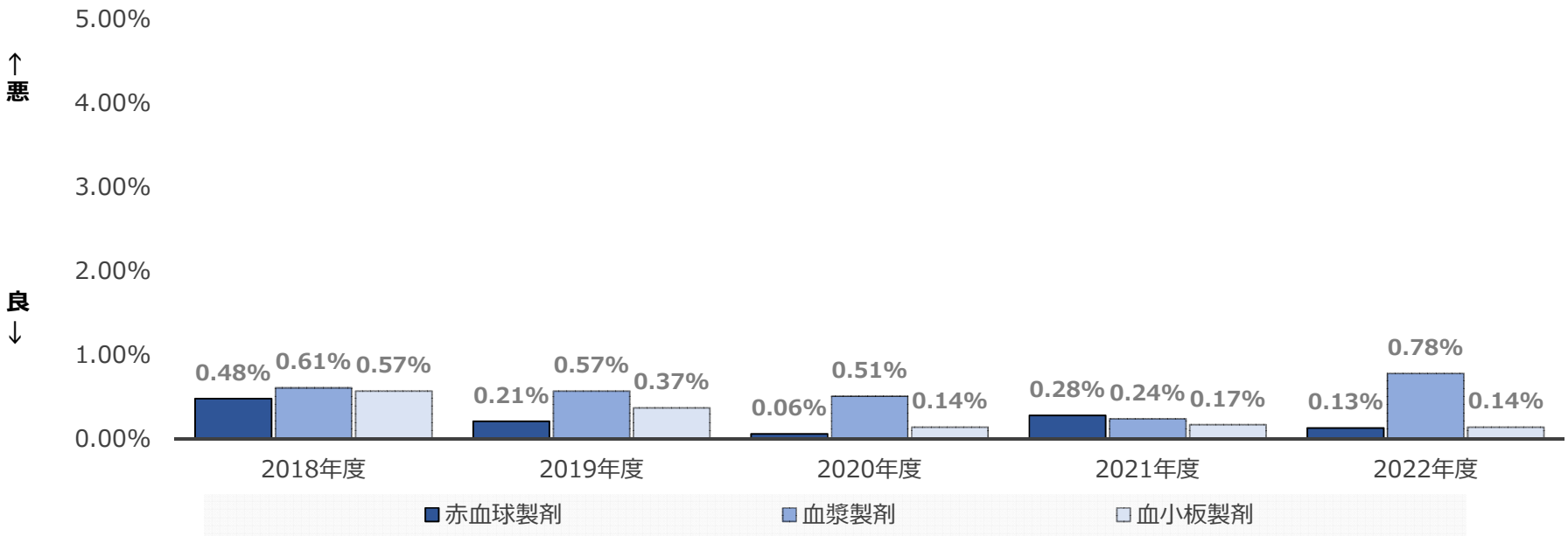
【41】輸血用血液製剤廃棄率



＜定義＞

$$\frac{\text{（分子）薬剤管理指導料の算定回数}}{\text{（分母）入院期間中７日に１回の算定機会数}}$$

※対象期間：2018年4月～2023年3月

＜コメント＞

わが国では、輸血用血液製剤は献血による血液を用いて日本赤十字社において調整・供給されています。

近年では少子高齢化が進むにつれて献血者が減少しているため、血液製剤の将来における不足が懸念されており、血液製剤は益々貴重な資源として認識されるようになってきています。

そのため血液製剤の廃棄量を減少させることは、貴重な資源の有効利用の観点からも大変重要な課題であり、医療関係者の責務でもあります。

当院でも輸血療法委員会を中心に、T&S・MSBOSの導入や、適正輸血の推進、また血液製剤の院内での有効利用の推進、在庫量の再検討を行うなど廃棄血削減に取り組んでおります。

当院の血液製剤廃棄率は低い廃棄率を維持しており、かつ年々減少している傾向ですが、2022年度は血漿分画製剤の廃棄率が増えています。原因を追求し、改善していく予定です。

T&S・MSBOS：医療費の削減、手術用血液製剤の有効利用ならびに輸血検査業務の省力化・合理化を目的として考案された輸血システム